

様式第9号(第7条関係)

政務活動費収支報告書

令和 6年 3月31日

神崎市議会議長 田 原 和 幸 様

住所又は所在地団体の名称

新 政 会

議員氏名又は経理責任者氏名

大 野 秋 人



令和 5 年 4 月 3 日付け神崎市議会第 16 号で交付決定を受けた政務活動費の収支報告書を神崎市議会政務活動費の交付に関する条例第7条に基づき、別紙のとおり提出します。

添付書類

- (1) 事業成績書
- (2) 収支決算書
- (3) 領収証書
- (4) 領収証書を徴することが困難な場合は会派代表者又は議員の支払証明書



事業成績書（令和5年度）

政務活動 実施内容	1 調査研究費 (1) 特産品の大規模選果に関する調査研究 (ア) 日 時：令和5年5月24日（水） (イ) 場 所：JA菊池西瓜選果場（熊本県合志市） (ウ) 参加者：末次、徳川、大野 (2) 最先端の農業展示会に関する調査研究 (ア) 日 時：令和5年5月24日（水） (イ) 場 所：グランメッセ熊本（熊本県上益城郡） (ウ) 参加者：末次、徳川、大野 (3) まちづくりに関する調査研究 (ア) 日 時：令和5年8月21日（月） (イ) 場 所：内子町役場八日市・護国街並保存センター（愛媛県喜多郡内子町） (ウ) 参加者：末次、徳川、大野 (4) 未利用間伐材等の利活用に関する調査研究 (ア) 日 時：令和5年8月21日（月） (イ) 場 所：内子町森林組合、バイオマス発電所（愛媛県喜多郡内子町） (ウ) 参加者：末次、徳川、大野 (5) 議会における施策評価・事務事業評価に関する調査研究 (ア) 日 時：令和6年1月25日（木） (イ) 場 所：いなべ市議会（三重県いなべ市） (ウ) 参加者：末次、徳川、大野 (6) 農を起点とした多様なビジネスの創出とブランド化の推進に関する調査研究 (ア) 日 時：令和6年1月26日（金） (イ) 場 所：東広島市役所（広島県東広島市） (ウ) 参加者：末次、徳川、大野 2 資料購入費 日本農業新聞の購読（令和5年4月～令和6年3月分） 購読者：末次、徳川
--------------	---

成 果	1 全般 会派内で調査研究すべき課題と行き先について検討した上で調査研究に取り組むとともに、資料等を購入し情報収集や知識の拡充に努めた。 詳細については、別紙政務活動結果報告書のとおり。 2 項目毎の状況 (1) 資料購入費 専門分野の新聞購読により最新情報の入手に努めた。 (2) 調査研究費 会派内で農業や農産物の販売に関することと、農林業における未利用材（もみ殻、未利用間伐材）の有効活用についての調査研究に取り組んだほか、当市のまちづくりに関する取り組みや議会内での取り組みについて他市町の取り組みの調査研究を実施した。 3 市政への反映 (1) 先進的な取り組みや技術等の知識を拡充することができた。 また、それぞれの自治体で様々な課題や問題を独自の取り組みによって解決しようと取り組む状況を詳しく把握することができた。 今後も様々な課題の分析、解決方法や先進的な取り組みについて、神埼市の実情に応じた調査研究と政策提案等に努める。 (2) 定例議会の一般質問にて調査研究事例を紹介し、執行部に対して同種取り組みの検討を求めた。 (令和5年12月議会 神埼市の森林について（バイオマス発電関係）大野)
------------	---

政務活動費収支決算書

（令和5年度）

1 収入

単位：円

科目	予算額	決算額	摘要
政務活動費	720,000	720,000	
その他		3	預金利息
計	720,000	720,003	

2 支出

単位：円

科目	予算額	決算額	摘要
調査研究費	420,000	428,261	
研修費	0	0	
会議費	0	0	
資料作成費	0	0	
資料購入費	300,000	62,952	
広報費	0	0	
事務費	0	0	
預金利息	3		
計	720,003	491,213	

政務活動費支出明細書

領収書 番号	支 出 年月日	内 容	支 出 先	支出金額							備考
				調査 研究費	研修費	会議費	資料作成費	資料購入費	広報費	事務費	
		合 計		428,261	0	0	0	62,952	0	0	
2	5月23日	5月24日 お土産代金 合志市:特産品大規模選果について 上益城郡:九州産業WEEK参加	村岡屋	2,612							視察先【お土産代】
3	5月24日	5月24日:費用弁償 合志市:特産品大規模選果について 上益城郡:九州産業WEEK参加	西日本高速道路(株)	1,220							高速代金(往路) 八女IC→植木IC
4	5月24日	5月24日:費用弁償 合志市:特産品大規模選果について 上益城郡:九州産業WEEK参加	西日本高速道路(株)	930							高速代金(復路) 植木IC→八女IC
5	6月6日	5月24日:費用弁償 合志市:特産品大規模選果について 上益城郡:九州産業WEEK参加	末次 勝	7,067							車賃(往復) 37円×191km 支払証明書添付
6	6月6日	5月24日:費用弁償 合志市:特産品大規模選果について 上益城郡:九州産業WEEK参加	徳川 博人	7,067							車賃(往復) 37円×191km 支払証明書添付
7	6月6日	5月24日:費用弁償 合志市:特産品大規模選果について 上益城郡:九州産業WEEK参加	大野 秋人	7,067							車賃(往復) 37円×191km 支払証明書添付
9	8月23日	8月21日～8月22日:費用弁償 愛媛県内子町:まちづくりについて 内子森林組合:未利用間伐材等の利用について	新政会会派議員 3名	153,660							会派議員3名分 公共料金につき行程・ 費用弁償計算書を添付
10	8月20日	8月21日～8月22日:視察先【お土産代】 愛媛県内子町:まちづくりについて 内子森林組合:未利用間伐材等の利用について	村岡屋	2,612							
11	8月21日	8月21日～8月22日:費用弁償 愛媛県内子町:まちづくりについて 内子森林組合:未利用間伐材等の利用について	オリックスレンタカー松山空港店	10,374							視察時のレンタカー代金
12	8月21日	8月21日～8月22日:費用弁償 愛媛県内子町:まちづくりについて 内子森林組合:未利用間伐材等の利用について	西日本高速道路(株)	1,080							高速代金(往路) 松山IC→内子五十崎IC
13	8月21日	8月21日～8月22日:費用弁償 愛媛県内子町:まちづくりについて 内子森林組合:未利用間伐材等の利用について	西日本高速道路(株)	1,080							高速代金(復路) 内子五十崎IC→松山IC
14	8月21日	8月21日～8月22日:費用弁償 愛媛県内子町:まちづくりについて 内子森林組合:未利用間伐材等の利用について	太陽石油販売(株)セルフ和泉SS	1,000							レンタカーがガソリン代金
15	8月21日	8月21日～8月22日 愛媛県内子町:まちづくりについて 内子森林組合:未利用間伐材等の利用について	(有)内藤工業	12,000							内子バイオマス発電所 視察料金
16	8月21日	8月21日～8月22日 愛媛県内子町:まちづくりについて 内子森林組合:未利用間伐材等の利用について	内子町森林組合	5,500							森林組合 会議室利用料
17	8月21日	調査研究視察時日当・宿泊料金	末次 勝	0							No.9に含まれている

[illegible]

(別紙)

政務活動（調査研究・研修）結果報告書

会派名： 新政会

議員名： 末次 勝

用務地： JA 菊池西瓜選果場、九州産業 WEEK、道の駅メロンドーム

期 日： 令和5年5月24日（水曜日）

目 的： 最先端の農業展示会を視察することにより、現場の課題解決に向けた取り組み方策の検討及び、生産から販売までの消費者ニーズの確認を目的とする。

所 感

・ JA 菊池西瓜選果場

ほとんどの工程が自動化されており、品質面、西瓜の大きさなど画像認識装置などが仕様されており、最新の設備で感銘を受けた。また、ICチップによるトレサビリティ管理されており徹底した品質管理が見られた。

・ 九州産業WEEK

日本最大の農業展示会が熊本で開催されることで、今後のスマート農業について研究する目的で視察した。最新のドローン、草刈り機、アシストスーツなど農業の高効率化に繋がると感じた。農業に関するシステム化など進んでおり、たくさんの方が説明を受けていた。これも個人経営から法人経営へシフトする傾向にあると感じた。また、6次産業などのブースがあり、生産するだけではなく、加工を含めた農業が進んできていると感じた。

・ 道の駅メロンドーム

神崎市に道の駅があってほしいとの声が、市民より声が聞かれる。その辺を含めて視察を行った。神崎市の活性化に繋がるように、提案していきたいと考える。

新政会派視察研修報告書

- ・ 期日 令和5年5月24日（水曜日）
- ・ 研修場所 (1) J A 菊池西瓜選果場
(2) 九州産業WEEK（グランメッセ熊本）
(3) 道の駅旭志・道の駅メロンドーム
- ・ 参加者 新政会 末次 勝、大野 秋人、徳川 博人
- ・ 目的と背景

最先端の農業展示会を視察することにより、現場の課題解決に向けた取り組み方策の検討及び生産から販売までの消費者ニーズの確認を目的とする。

・ 施策報告

○JA 菊池西瓜選果場

西瓜一玉ごとに、糖度検査を行い消費者に安全で美味しい、西瓜を選果しており、製函機で出荷箱を自動で作り、西瓜もロボットで箱詰めし、極力人件費を削減してある選果場で、当初設備は高いがトータルすれば、経費削減となり農家所得の向上に繋がっている。

○九州農業 WEEK (グランメッセ熊本)

日本最大の農業展示会が熊本で開催されましたので、現状の課題解決に向けた、スマート農業展示会に参加しました。

国内・海外の農業関係企業約300社の展示があり、スマート農業関係の進捗状況、6次化産業の成功事例、ドローンの性能比較など、製品を見てどの様な効果を発揮するのかの確認が出来、農業の自動化は、高齢化・労働力不足など避けて通れない道であり、今後も先端技術を、神埼に導入するメリットを計算、より有効的な比較検討ができると考えます。

○道の駅旭志・道の駅メロンドーム

神埼に道の駅はないが、今後市民の皆様のよりどころと、神埼の情報発信拠点として必要と考えるため視察を行いました。

運営については、すべて別会社で運営されておりました。

・所感

今回の会派視察研修は、農業の次世代スマート農業がどのように進んでいくのかを目で見て神埼に導入した場合にどのような効果があるのか、また各企業が将来的により効率化を進めていく展示が多くあり、今後も省力化が進んで行くと思います。

報告者 徳川 博人

研修報告書

- 1 報告者：新政会 大野 秋人
- 2 期 日：令和5年5月24日（水）
- 3 場 所：JA菊池西瓜選果場、グランメッセ熊本、道の駅旭志・道の駅メロンドーム
- 4 目 的

農業分野に関する先進的技術や手法及び先進的な取組に関する展示会及び農業事業体を実地に研修することによって、先進的な技術や取り組みに関する知識を拡充するとともに、神埼市の農業における課題対応等への思考を深化させ、市政への政策提案等に資する。

5 成 果

(1) 全 般

私は、農業分野の知識経験が乏しいため、必要の都度、農業分野に精通している徳川議員による補足説明を求めつつ研修した。

その結果、農業分野における現状と解決すべき課題を部分的ではあるが把握し、その課題について、様々な産業の分野が取り組む最新技術や手法等について実地に研修することができた。

(2) 細部及び所感

ア JA菊池西瓜選果場

現地の特産品である西瓜やメロンを集荷、選別、梱包、配送手配までを大規模で実施している選果場内を研修した。

研修時は、西瓜の選果作業の最盛期であり、ベルトコンベアーや様々な機器が慌ただしく操業していた。

西瓜の選別過程においては、外観、大きさ、比重、糖度の計測が計測機器にて実施されており、クレーム対応等に備えて一つ一つがバーコード管理されていた。

意外だった点として、一番はじめの品質チェックとして、3名の方が、西瓜一つ一つを手で軽くポンポン叩いて選別した後にコンベアーのラインに西瓜を乗せる工程があり、案内者に確認した結果、選別ラインの大きな流れとして、「人間の目や手、耳の感覚で実施した選別の正確性を科学的な機械の計測にて裏付けている。やはり機械は人間の感覚にはかなわない面がある。」とのことであった。

神埼市は西瓜の大規模な取り扱いがないが、今後、何らかの特産品を大規模に取り扱う場合にはこの様な大規模な選果場が必要となり、西瓜のような大きな品物でもやる気になれば機械化できることを理解した。

イ グランメッセ熊本

神埼市においても、農業従事者に対する負担軽減を目的にドローンやアシストスーツの導入に伴う補助等が実施されることから、類似する機器を中心に研修した。

その結果、ドローンについては様々な会社が競って様々な能力や機能を付加した製品がある事を知り、アシストスーツについては実際に装着して20キロの荷物を持ち上げる体験ができた。

金額については当然ながら高額なものが高機能であり、農家の立場になって考えると、コンバインのように1年間に使用する回数が少ない場合等を考慮すると、費用対効果や長年保有し続けることに伴う充電式バッテリーの耐久性や交換に伴うコスト等は不明確であり、今後数年は様子を見た方が良いと感じた。

その他、もみ殻の粉碎処理に関連して、もみ殻も竹も間伐材も粉碎が可能な粉碎機等、興味深い機器も多数展示されており今後の参考となった。

ウ 道の駅旭志・道の駅メロンドーム

名称のとおり、メロンや西瓜の特産品を陳列する大きな台が施設内に置けられており、地元の特産品を積極的に販売したいという地域の考えが反映されていると感じた。

政務活動（調査研究・研修）結果報告書

会派名： 新政会

議員名： 末次 勝

用務地： 愛媛県内子町

期 日： 令和5年8月21日(木)

目 的： 内子町重要伝統的建造物群保存地区を活かしたまちづくり
内子バイオマス発電所について

所感

■内子町重要伝統的建造物群保存地区を活かしたまち
づくりについて

内子町 八日町・護国町町並保存センターのコンセプトは住まいであり、住民の皆さんと一体となり、行政は市民目線でまちづくりが行われている。そのような取り組みを実施されていることで相談ごとや困りごとなど行政側からわかりやすい仕組みであった。空き家をリノベーションし宿泊施設を見学したが、ファミリー向けでスペースを確保するような工夫もされていた。

■内子バイオマス発電所について

内子町森林組合、内子バイオマス発電所に関しては、
原木→ペレット→発電機→エネルギー（電気と温水）の
流れになっており、将来的には町内に電力を供給するこ
とが目標となっている。現在の実績は目標の半数であり、
今後の取り組みに期待する。本市においても、中間山地
で林業もあることから、自家発電エネルギーの確立を検
討し参考にしたいと考える。

新政会会派視察研修報告書

- 1, 期日 令和5年8月21日
- 2, 研修場所 ①愛媛県喜多郡内子町城廻 211 番地
内子町役場町並・地域振興課
八日市・護国町並保存センター
担当者 土井正一所長
Tel 0893-44-5212

②愛媛県喜多郡内子町寺村 2478-1
内子町森林組合
担当者 大鍋直幸 代表理事専務
Tel 0892-52-3135

③愛媛県喜多郡内子町寺村 2478-1
内子バイオマス発電所
担当者 内藤昌典 所長（内藤鋼業社長）
Tel 0892-52-2370

3,出席者

末次 勝
大野秋人
徳川博人

4, 研修内容

① 内子町 八日市・護国町並保存センター

内子町は愛媛県のほぼ中央に位置し、人口は約 1.5 万人と神埼市の半数程の町で山林が、全面積の約 78%と

山林に包まれた町で、町の中心地に古い町並みがあり、現在も住民が住む町並みとして保存されている。

昭和 57 年に四国で初めて、全国で 18 番目に重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、現在までに町並に保存に要した経費は 7 億 2 千万程度である。

ここ数年は、ゲストハウス、酵母パン屋、ドイツ料理の店など保存地区内にオープンしている。

所感

神埼市も旧長崎街道神埼宿観光拠点づくり事業を令和 5 年度より実施する計画で進んでおり、参考になりましたが、神埼市との違いは、景観が大きく違いすぎており、内子町並みは、「人が住み続ける伝統町並み」がコンセプトだと感じました。

② 内子町森林組合

組合員 3,210 名で、森林面積は 23,248ha あり、内子の未来を森からつくるをスローガンに、数多くのイベントを開催し、地域住民が親しみやすい森づくりを進められている。

その中でもコストを控え市場の D 材や間伐未利用材も効率よく活用されていた。

③ 内子バイオマス発電所

内子森林組合敷地内に、森から運ばれてきた木を使って電気を作るバイオマス発電所が建設されており、発電量は 1,000 k w で、一般家庭 2,500 戸（1 年間）の発電をしている。

燃料は間伐材をペレット化しているため持続可能なエネルギーとして、注目されている。

所感

今回のバイオマス発電所は、内子の森林を守るために、どうしたら森林の整備ができるのか、また整備をすれば未利用資源が発生する木材を、再生産できる価格で森林組合が買取、バイオマス発電所に売渡し発電するシステムを実践されており、今までなかったことを地域の連携で実践されており、今からの森林整備を含めて参考になりました。

徳川 博人

政務活動（調査研究・研修）結果報告書

会派名： 新政会

議員名： 大野 秋人

用務地： 愛媛県喜多郡内子町

期 日： 令和5年8月21日（月曜日）

目 的： 内子町重要伝統的建造物群保存地区を活かした街づくり及び内子町森林組合及び内子バイオマス発電に関する行政等の取り組みについて、実地に調査研究する事によって、神崎市における類似する取り組みの参考事項や様々な課題、今後の取り組みの方向性を見出す参考事項を得る。

所 感

・ 八日市・護国町並保存センター及び同重要伝統的建造物群保存地区町並保存センターにて、同センター所長による街並み保存のあゆみ等の説明を受けた後、同地区内の特徴的な建物を調査した。

まず感じた点として、内子町が大切にしている重要伝統的建物群保存地区は、とても古い建物や石垣等の建造物が多く残っていた昭和47年に町並保存が提唱されて以降、途切れることなく50年以上の間、町並保存の取り組みを続けて来た結果が現在の状態であり、神崎市が取り組みを始めようとしている宿場町の町並みとは、簡単に比較対照できないと感じた。

他方、様々な取り組みの中でも極めて大切であり神崎市においても必要だと感じた点として、内子町では町並保存の主体として、住民を中心とした町並保存会が昭和51年に組織されており、現在も活動を継続しているとのことであった。地域住民の協力がなければ成り立つ事業ではないことは当然であるが、「地域住民の協力」という意味は、「地域住民自らが町並を大切に保存する事によって観光客を呼び込み、そこで生業を継続しようという意識を持ち続けてもらうこと」であり、行政は「後押し、縁の下での力持ち」的なスタンスであり、その点はとても大切だと感じた。やはり地域住民の意識を如何に醸成していくかというポイントは今後の参考としたい。

・ 内子町森林組合及び内子バイオマス発電所

前半は、内子町森林組合の専務による町内の森林の状況、森林組合としての取り組みの状況等について説明を受け、後半は、森林組合に併設されたバイオマス発電所にて木材のペレット化及びバイオマス発電に取り組んでいる内藤工業の社長による説明を受けた。

現状は、数ヶ月前に発生した工場内の火災による復旧作業のためペレット工場及びバイオマス発電所は非稼働状態であった。

林業に関する担い手不足や高齢化等の状況は神崎市と大きな差はなく、どこも似たような状況にあると感じたが「ではどうするか、何か自分達でできる事はないか」という考えと、今後、数十年先を見据え化石燃料の使用量を少しで

も減らしつつ、売電する事によって町内の材木が町内でお金に変わる仕組みを作ろうとした取り組みが木質バイオマス発電につながっていると感じた。

説明を受ける前は、廃止予定の脊振広域クリーンセンターの利活用に関するヒントや、籾殻の処理、林業における未利用間伐材の利活用を念頭においていたが、説明を受けるに連れて、高齢化及び担い手不足に伴い減少する林業従事者、価格相場に左右され危険な仕事の割に収入が不安定な林業などの本質的な問題点を重視して、打開策として木質バイオマス発電に取り組んでいることを理解すると、神崎市は今のままで大丈夫かと少し不安な気持ちになった。

内子町森林組合にて、今までは製紙工場に1立方メートル当たり3000円程度で売却されていた材木（大きな傷や腐っている部分があるもの、曲がりが強くて建築材として使えないもの）が木質バイオマス発電を導入する事によって、1立方メートル当たり7500円前後で売却できるようになったとのことである。

ということは、林業業界では伐採や植林等、他の様々な補助金の下支えはあるにせよ「いくら山で木を育てても、伐採して市場へ持ち込んでも、結果は赤字」という状況は回避できる金額とのことであり、人口が減少の一途であることに加え「きつい、きかない、きけん」と言われてきた林業は、他の業種に比べ担い手不足は大きな課題であり、その課題の克服にも寄与できる可能性があると感じた。

現地の木質バイオマス発電関連設備は、海外製が中心であり、様々な工程で技術的に難しい点が存在することも理解した。

「有利なお金儲け」はできないかも知れないが、山を守ること、減少を続ける林業従事者を増やすこと、また、地元の山の材木は地元で消費して化石燃料の消費を抑制すると同時に山と林業従事者を守れるということは最終的に地域を守るという次の時代の一手になるのではないかと感じた。

(別紙)

政務活動（調査研究・研修）結果報告書

会派名： 新政会

議員名： 末次 勝

用務地： 三重県いなべ市、広島県東広島市

期 日： 令和6年1月25日(木)～26日(金)

目 的： 議会における施策評価、事務事業評価について他、

農を起点とした多様なビジネス創出とブランド化について他

所 感

いなべ市の人口は44,832人で面積は約220㎢で、市役所から鈴鹿山脈をいただき、山林が約40%で、また田園地帯が広がる緑豊かな市と感じた。産業としては、自動車産業が盛んであり、市の活性化にも反映していると感じた。市役所に併設のナチュラル系コンパクト商業施設のにぎわいの森があり、自然とアウトドア・農と食をコンセプトとした施設で、本市としても旧庁舎跡地の利活用に参考となると考える。

議会における施策評価・事務事業評価については、いなべ市議会行動計画に示されており、いなべ市議会基本条例に基づき執行機関が行った事務に関し、議会による事業評価を行い、適正な行政運営に努めている。また議決機関として、議会が決定した予算が適正に執行なされたか評価し、市民に対し説明責任を果たしている。事業に対する評価が数値化されていることで、判断基準が分かりやすく非常に良い評価プロセスと考えるので、神崎市においても将来的には実施するべきと考える。

東広島市の人口は196,608人で、面積は約635㎢で、周囲を山々で囲まれた市であり、西条酒蔵通りには7つの酒造が並び、伝統の技で日本酒造りが行われており、年に1回の酒まつりが開催され多くの観光客で賑わっている。

東広島市では産業部ブランド推進課で多様なビジネスの創出とブランド化の推進されている。取組の中で酒造り、海山の幸を活かし、家族をターゲットとした道の駅西条 のん太の酒蔵を令和4年7月にオープンし、東広島市全域の統一ブランド認証制度、市内飲食店に対し、市内産品を使ったメニュー開発支援など、道の駅を活用した市の活性化が取り組まれており、神崎市においても、今後の取り組みに参考にしたいと考える。また、ジビエの取り組みでは市独自の技術力でブランド肉の差別化を図り好調な売れ行きであることから、本市においても展開したいと考える。

新政会視察研修報告書

1, 期 日 令和6年1月25日(木)～26日(金)

2, 視察先 三重県いなべ市・広島県東広島市

3, 参加者 末次勝・大野秋人・徳川博人

4, 視察の目的

① 三重県いなべ市 TEL 0594-86-7848

・議会における施策評価、事務事業評価について他

② 広島県東広島市 TEL 082-420-0966

・農を起点とした多様なビジネス創出とブランド化について他

5, 視察内容

① 三重県いなべ市 対応者 市議会 小川幹則 議長

市議会 渡辺一弘 議員

議事課 城野雅子 課長補佐

・いなべ市は、三重県の最北端に位置し、面積は219km²で市制施行は2003年12月人口は44,755人(2023/11)で人口割合に対して世帯数は19,256世帯で、世帯数が多いのは、市内には自動車産業の会社が多く単身世帯が多くなっている。

いなべ市議会は、議会基本条例の掲げる「議会が議決機関として議決責任を強く認識すること」に立ち市民に開かれた議会として、議案審議、事務の執行を監視し評価する役割を担っている。

課題解決の具体化についても、重要性和緊急性を合わせて市民の皆様と意見交換会、議会報告会等様々な場を設けている。

所感

いなべ市議会の、市議会議員の役割として各予算執行の中で、どうしたら市民皆様の生活向上、利便性等を数値で表して評価する仕組みづくりを実施されており、まだ完成ではないがピックアップした事業施策の検証をせることで、市民の皆様の考え方、方向性等見えてくると考えますので、神崎市でも、予算委員会等で重要施策においては、実際事業を進めた場合どのような効果があるのか検討する必要があると考えます。

また、決算委員会等でも継続するのか、縮小するのか、増額するのか、廃止するのかの検討は必要と考えます。

実行するには、言葉だけでは説得力に欠けますので数値解析が必要になり、評価点制度を考える時期に来ていると思います。

② 広島県東広島市	対応者	市議会	奥谷 求	議長
		農林水産課	松島玉奈	課長
		農林水産課	湯浅至恭	課長補佐
		農林水産課	井口裕介	係長
		農林水産課	吉岡 駿	
		ブランド推進課	丹下和貴	課長
		ブランド推進課	丸岡功宗	係長

・東広島市は、広島市のベッドタウンとして人口約 19.6 万人として発展しており、また日本酒の町としても地場産業も盛んな地域である。

今回の視察目的は、農を起点とした多様なビジネス創出とブランド化の推進について視察しました。

面積も 635 km²で周囲に山々に囲まれ、標高 200m～400m の盆地の地形が大部分を占めているため、広島県内最大級の穀倉地帯で、市内には酒蔵が 10 か所あり、酒蔵を中心に、酒に合う食材の開発、ジビエの取り組み状況については、こだわりの「止め刺し」技術で差別化を図られている。

所感

東広島市の取り組み状況については、神崎市でも取り組むことができることが多くあると考えた場合、福岡市内から 60 分程度で気軽に来れる所「かんざき」にするためには、都会には無い物（自然、田園風景、食材、体験等）を振興する事が必要であると考えます。

仮に「かんざき」道の駅を作り、市民の皆様のよりどころとして、神埼特産物の開発ができ、神埼には広大な土地があり体験型そうめん作り、農林体験型等など都会ではできないことを進めるべきと考えます。

まずは、消費者の喜ぶ商品開発を早急に行い、神埼に無いものは九州内で調達するシステムを構築していくことで、他に類を見ない直売所づくりを行えば必ず賑わいが創出でき同時にブランド力の構築につながると思う。

報告者 徳川 博人

政務活動（調査研究・研修）結果報告書

会派名： 新政会

議員名： 大野 秋人

用務地： 三重県いなべ市

期 日： 令和6年1月25日（木曜日）

目 的： 議会における施策評価及び事務事業評価に関する取り組みについて、
実地に調査研究する事によって、神崎市及び神崎市議会における取り組みの参
考や様々な課題、今後の取り組みの方向性を見出す。

所 感

様々な取り組みとその概要説明を受けて感じたことは、本調査研究の目的とし
ていたいなべ市市議会が実施している事業評価だけではなく、その他に「議員
自らの自己評価」、「議会基本条例の検証」などの前向きな取り組みが継続的に実
施されている中で、更に、「議会モニター制度の設置」、みんなの声カフェとい
う名称で実施する「市民と議会との意見交換会」、「学識者をアドバイザーとし
て委嘱した上で実施する議会活動の外部評価」などの取り組みが今年から運用開
始予定とのことであり、先進的でありながら更に先へ進もうとしている議会だ
と感じた。

様々な環境の違いや長い時間をかけて検討、構築された制度の違いなどは、
神崎市と簡単に比較はできないが、本調査研究の当初の目的としていた議会側
が実施する事業評価はもちろん、様々な取り組みを実現するためには根拠となる
議会基本条例の制定が必要だと強く感じる結果となった。

また、いなべ市市議会には、新人議員を対象とした研修で同席した議員がい
たことから、表面上の説明だけではなく、自分と同じ環境である一期目の新人
議員として感じた本音や裏話など様々な実情も聞くことができた。

現在、神崎市では事務事業評価が実施されていないことから今後の実施可否
についての検討を働き掛けていきたい。

また、今後、議会改革検討委員会にて議会基本条例制定に関する検討が実施
される予定であることから、今回の調査研究で知り得たいなべ市の取り組みだけ
ではなく、他市町での取り組みに関する情報収集も継続し、議会の更なる活性化
も目標にして今後活動していきたい。

政務活動（調査研究・研修）結果報告書

会派名： 新政会

議員名： 大野 秋人

用務地： 広島県東広島市

期 日： 令和6年1月26日（金曜日）

目 的： 農業や農産物を起点とした多様なビジネスの創出とブランド化の推進に関する取り組みについて、実地に調査研究する事によって、神崎市における取り組みの参考や様々な課題、今後の取り組みの方向性を見出す。

所 感

東広島市の概要や農林水産関係の取組みに関する説明を受けて感じた事は、人口や面積、予算規模は神崎市と比較にならないほど大きな東広島市であるが、少子高齢化に伴う後継者不足や有害鳥獣類の増加等は、神崎市と共通する課題であり、同種の課題は自治体規模に関係なく共通して抱える大きな課題だと感じた。

また、東広島市では市内の環境や条件の課題を的確に把握、分析し、日本酒の酒蔵が多いことや4つの大学があることから大学生人口が多い等の強みを活かす対策や様々な取組みが実施されており参考となった。

農業や農産物を起点という点に注目すると、東広島市は広島県内で最大級の穀倉地帯があるとのことであるが、有名な農産物と言えば、西条柿という柿や海に面した地域で養殖されている牡蠣、馬鈴薯などとの事であるが、あまり知られていないとのことであった。

その課題を分析した結果、食材は多く存在するが、その食材を活かして食べるコンテンツが少ないため、その課題を解決するために、市内の産品に対する東広島市全域の統一ブランド認証制度や、飲食店に対して市内産品を使ったメニュー開発とPR経費の支援などの取組みを実施しているとのことであった。

他にも有害鳥獣対策では、狩猟に関する免許取得費用の補助などの他、罠に有害鳥獣がかかった際に専用WEBページを確認すると罠の設置場所や作動状況を把握できる無線捕獲パトロールシステムというICT機器などを導入し捕獲に携わる人の負担軽減に努めているとのことであった。

人口や予算の規模が異なることから東広島市の取組みをそっくりそのまま神崎市に取り入れることはできないが、今後、農産物の対外PRや人口減少に伴う有害鳥獣対策としてのICT機器の導入など、先進的事例を参考に今後もしっかりと調査研究を継続したい。